



## 推薦入試 いよいよ本番近づく

No. 6 (11月9日発行)

11月に入り、推薦入試を受験する3年生は志望校へ出願を終え、いよいよ入試本番を迎える時期が近づいてきました。入試対策は、順調に進んでいるでしょうか。

面接や小論文試験に向けて、こつこつと準備を重ねていることと思いますが、なかなか思うように「話せない」「書けない」と苦しんでいる人もいることでしょうか。しかし、焦らず、心を落ち着けて、先生方にアドバイスをいただきながら、今やらなければならないこと、今やれることを確実に行ってください。自分の将来を切り開くための大切な試練です。今こそ、渾身の力を傾けて、頑張りましょう。

●**面接試験** 礼法や身だしなみに気をつけるのは当然ですが、**志望の動機**や**将来の展望**といった、話の中身が一番重要です。自分の言葉でわかりやすく話すことです。また、受験する大学について、不十分な知識で受験しようというのではあまりに失礼で、言語道断です。大学案内を熟読して、大学の学部・学科について熟知しておくこと。

●**小論文試験** 担当の先生の指導のもと、志望校の過去問等について論述練習を行っているものと思います。**志望校の出題傾向**は、十分把握しているでしょうか。課題論述(テーマ)型、文章読解型、資料分析型、あるいは、文章読解にしても英文を読ませてから日本語で論述させるタイプもあります。また、問題のテーマは、**学科関連**のものと**社会トピックス**のものに大別できます。学科関連テーマは、大学での学びに直結するものなので、志望校の過去問だけでなく、同系列の他大学の過去問も参考にして、テーマ別にピックアップし、ノートを作成して、十分に調べたり考えたり、自分なりの意見を持ったりして、内容をまとめておくことです。社会トピックスの出題は、社会の課題に対する問題意識や、批判力、感性が問われます。毎日、新聞に目を通し、社会の出来事に敏感でいなければなりません。例年、6～9月あたりに新聞で取り上げられたテーマやトピックスの出題が目立つので、この時期のニュースは要注意です。

推薦入試に向かう皆さん、健闘を祈ります。全力で頑張ってきてください。

それから、受験後は、受験報告書を記述して担任の先生に提出することを忘れないでください。

合格が決定し、入学手続きを終えると、大学側から入学準備教育プログラムによる課題の指示がある場合が多いようです。大学生活へ向けて、しっかりと課題に取り組むとともに、視野の広い学習を心がけてください。

### 【1・2年生の皆さんへ】

今から推薦入試を利用して大学に進学したいと考えている人達もいることでしょうか。推薦入試を利用したいと考えるのは、なぜでしょうか？ ①一般入試よりも楽そうだから。②入試時期が早いので、早く進路が決定して、安心できるから。③絶対入りたい大学があり、その大学の受験のチャンスを増やしたいから。予想される理由を3点挙げてみましたが、①の理由を考えている人は、本当にそうなのか慎重に考える必要がありそうです。

裏面に推薦入試についてまとめましたので、よく読んでみてください。

最も大事なことは、まず最初に自分の志望校をきちんと決めること、次いでその大学に入るための有効な方法(入試方法等)を考えることです。**推薦入試とは、学校代表として学校長より推薦される入試なわけですから、学業・人物ともに優れていなければ推薦される資格はありません。**安易に自ら推薦で受験しようなどと決めるものではないのです。



## ～推薦入試について～

### ①推薦入試の種類

- ・ **公募制** 原則として全国どの高校からでも出願できる。
- ・ **指定校制** 出願できる高校を大学側が指定する。各高校から何人まで推薦可能と人数枠を設けていることが多い。公募制よりも合格の可能性は高いが、自分の志望大学・学部学科が指定校制をとっているとは限らない。

### ②出願条件

- ・ 学校長による推薦が主（自己推薦もある）
- ・ **評定平均値**は、公募では**国公立大の多くは「4.3以上」ないし「4.0以上」でない**と出願できないことが多い（近年基準緩和の傾向も見られるが）。私立大では、「成績基準なし」から「4.0以上」の高基準設定とさまざま。
- ・ 国公立大は「現役生に限る」が多い。私立大は「現役生に限る」、「制限なし」などさまざま。
- ・ **国公立大は原則「専願者のみ」出願可**。私立大は「専願者のみ」、「本学を第一志望とする者」、「学内併願は可」、「他校も併願可」などさまざま。

### ③選考方法

- ・ 出願受付は原則 11 月 1 日以降
  - ・ 試験は 1～2 日型が多い。
  - ・ **書類審査（調査書・推薦書・志望理由書など）＋小論文＋面接が主**
- ※国公立大では、センター試験を課す場合もある。



## 推薦入試戦線の動向

- **国立大学の推薦入試**は、原則として**公募制**で行われ、出願資格が上記のように「4.3 以上」ないし「4.0 以上」とシビアなうえ、1 高校からの推薦人数も制限するため、1 学部・1 学科あたり 50 人以下の**少数精鋭戦**として展開されるのが普通です。**国立大学は、入学者の 8 割強が一般入試での合格者**ですが、センター試験免除型の推薦入試は志望者が集まり、**高倍率の激戦となるケースも見られます**。
- 国公立大学では、近年、推薦入試において各地域に貢献する人材養成を主目的とした地元枠の導入が増加しています。県内では、以前より、**福島県立医科大と会津大に地元枠**があります。志望校として考えているのであれば、早めに、しかも計画的に、準備と対策に取り組むことが肝要です。
- 2017 年度の文部科学省統計によると、私立大は、推薦入学者が 40.5%を占め、AO 入学者 10.7%を加えると 51.2%となり、一般入学と同等の比重を占めています。私立短大では推薦入学者が 60.6%です。こうした現状を考えると、**私立大・私立短大が第一志望であるならば、推薦入試の活用は不可欠な**かもしれません。しかし、私立大の場合、公募制か指定校制かで、合格の可能性は大きく異なり、公募制では大学によって難易度もさまざまで、果たして自分の志望校が、自分にとって入りやすい大学なのかどうかは、容易に判断できるものでもありません。（一般学力試験のように偏差値では示せないのよ。）やはり、早い段階で現役合格を確保しようとする推薦入試に志願者が集まるのは明らかで、**楽して合格を勝ち取れるとは考えにくい**のです。ゆえに、**推薦入試・一般入試の 2 段階で受験準備を進めるしかありません**。

**1・2年生に言えることは、着実に学力をつけておくしかない**ということです。日々の学習を怠らず、できるだけ評定平均値を高くし、小論文対策もしておくこと。そうした努力もしないで、**楽をして入れるような大学ならば、むしろ入学してから後悔することになるかもしれません**（高い学費を払って入学したのに、こんなはずではなかったと失望させられる大学も、現実にはあるのです）。

## 【1年生の皆さんへ】

2021 年度入試（つまり、あなたたちの入試）から、これまでの推薦入試は「学校推薦型選抜」へ移行します。より学力が問われ、主体性の評価が加わります。主体的な活動で、何を学び何を得て、何に発展させるかの意識が必要となります。確かな「実力」を身につけていきましょう。

